

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391300043		
法人名	社会福祉法人いっつ星会		
事業所名	グループホームおからぎ		
所在地	岩手県二戸市堀野字大川原毛89-12		
自己評価作成日	平成28年1月30日	評価結果市町村受理日	平成28年5月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kihontrue&ji_gyosyoCd=0391300043-00&PrEfCd=03&VerSiOnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3-19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成28年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自宅と同様に生活の場として、自分らしい生活リズムに沿った過ごし方ができるようにゆったりとした雰囲気を作り出している。生活の中に自分なりの日課や役割を持っていただくことで生活にメリハリ作ったり、生活感を実感できるように支援を行っている。国際医療福祉大学大学院の竹内孝仁先生の、自立支援介護を実践し、認知症の軽減に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉法人が運営しており、開設して五年目の事業所である。付近は住宅が少なく、事務所、店舗等の多い商業地域となっているが、隣接して県立二戸病院があり、医療面の心強い協力を得ている。このような立地環境から、近所づきあいや災害対策面で付近の協力を得にくい状況にはあるが、できるだけ地域の行事に参加したり、災害対策の面では近くにある特別養護老人ホームの協力確保を図り、地域との連携に努めている。また、日常の散歩や買い物等を重視し、利用者の健康維持や馴染みの場所との関係継続に努力している。職員間の風通しも良く、また、計画的に研修等を実施し、モチベーションの向上に意を配りながら、日常のケアサービスに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の事業報告を職員全員が所持し、会議の際に使用している。また、法人理念を玄関と施設内の目の付きやすい場所に掲示しており、周知し、常に意識するように努力している。	法人全体の理念を玄関等見えやすいところに掲示し、常に職員が共有するようにしている。この理念を受けて、事業所としての運営指針を毎年度の事業計画の中に規定し、さらに部門目標も定め、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の商店街で、食材やおやつ等の買い物を行っている。また、出前を取ったり、散髪に出かけている。誕生日やクリスマスには、洋菓子店にケーキの注文をしている。	事業所周辺は、会社、事務所等が多く民家が少ないので、近所づきあいの面で不利な要素を抱えているが、町内会に参加し、回覧版の受け回しや各種行事への参加、買出し等では必ず近所のお店を利用するようにしているなど、近所とのつながりを維持するよう努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームの待機者が常にいる状況で、申込者に対し、地域のサービス等の説明や相談にのっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、夜間の避難訓練が議題になり、避難訓練の際に消防署の方の助言もあり、夜間の非難の方法を変更した。	二カ月に一度の会議の議題設定に苦慮することもあるが、新たに民生委員に委員をお願いしている。推進会議は、法人の施設の会議と同日開催であるため、短い時間に限られるが、委員からは意見等が出され、会議の助言を受け夜間の避難訓練について方法を変更するなど、運営推進会議を生かした取り組みに努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、二戸市福祉課、二戸地区広域事務組合等の行政にも出席いただいているので、普段の連絡は電話で行っている。今年からは地区の民生委員の方にも出席をお願いしている。	市町村の担当者は、運営推進会議にも参加しており、事業所の実情について理解を得ている。日常では、行政からの情報等の連絡は法人本部が窓口となっているが、必要に応じて広域事務組合に電話や訪問して相談等を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に繋がるケースはない。法人内部研修で、虐待防止の意識を高めている。事故防止にはセンサーマットや玄関の高所にセンサーを設置する事で、転倒防止、エスケープ等に対応している。	日中の玄関施錠はしておらず、身体拘束の実態はほとんどないが、言葉による拘束も含め、拘束のケースにつながらないよう、法人内の研修へ参加することや、リスクマネジメント委員会が出た事例等を、職員会議で説明するなど、常に意識を高めている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームおからぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内部研修を実施、各職員が虐待防止の意識を持って業務を遂行している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内部研修を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に施設を見学していただき、概要説明についても十分な時間をとり、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度家族会を開催し、意見交換を行っている。又、よらず相談を第三者委員に依頼し実施している。第三者委員に連絡を取れる環境がある。	利用者の意向は、日常のケアを通じ、また、年1回、夏祭りに合わせて家族会を開催し、事業報告や利用者の様子を写真で紹介しており、その際に意見交換しているほか、来所した際に話を聞いて、運営に反映させるようにしている。法人全体の苦情解決第三者委員にお願いし、よらず相談を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務会議を月一回行い、意見交換を行っている。職員アンケート、面談で職員の意見を管理者が聞き取り、人事・運営等に反映するようにしている。	職員の意見は月一回の業務会議の場で受け入れているほか、職員アンケートや個別の面談等を実施し、意向把握に努めている。大きな課題は法人本部に持ち上げている。全体に意思疎通がなされていると感じた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に職員にアンケートや面談を行い、意向を確認している。人事考課を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内部研修の実施。 外部研修にも参加の機会を設け、知識の向上に努めている。新人研修やOJTの実施。 月に一度、認知症の勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に入会し、研修や定例会に参加している。交換研修では、他事業所へ行き実習等を行っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に情報を収集し、アセスメントを行い支援に繋げている。 担当職員とも事前面接を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望を聞き、安心してサービス利用を開始できるように支援を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込み時に本人の状態をアセスメントし、サービス受け入れを行っている。 ケースにより各関係機関と連携を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意向を尊重した支援を行っている。本人様の出来る事を一緒に行い、暮らしを共有出来るようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	基本的には病院受診は、家族にお願いしている。必要時は職員も施設での様子を医師に報告している。家族が来所の際は近況を伝え、連携できるように支援を行っている。些細な事でも、家族へ相談・報告し、家族との繋がりを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣りのデイサービスに出かけたり、家族の協力で自宅へ帰る機会や、日頃会えない人の面会、行きつけの美容院へ出かけたりし、馴染みの関係を切らないように対応している。敬老会や夏祭り等の事業所や家族様との交流も大切にしている。	家族や知人、友人の面会機会を維持するとともに、一時帰宅、買い物や美容院等への外出、お祭りなどの地域行事の見物などを支援し、従来の馴染みの関係が途切れないよう努力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	本人の能力を把握しながら、出来る事は皆と一緒に出来る様に支援している。なるべく周囲と関わりをもてるようにしている。孤立しがちな方には、職員が間に入り会話を進めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今後の課題である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の観察をしながら、本人の意向や希望を把握出来る様に努めている。職員同士で情報を共有し、支援につながるようにしている。日々のなかでご本人が話した内容を記録に残すようにしている。	利用者に寄り添い、意見が出せるような声かけに努め、希望や意向を感じとりながらケアを行っている。把握が困難な場合は、スタッフで相談し、意向確認に努めている。日々の様子や気づいたこと等を介護日誌や連絡ノートに記録し、職員間で状況の共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、または家族から生活歴や嗜好について伺ったり前担当ケアマネージャーから情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察をしながら、記録で職員間の共有をし、支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向や生活状況をアセスメントし、ケアプランを作成している。毎月モニタリングを実施し、年に一度家族カンファレンスを行っている。	入所時に作成した介護計画は、その後、本人の状況や意向を踏まえ、毎月、全職員でモニタリングを実施している。この計画の見直しは半年毎に行っているが、家族カンファレンスを年一回実施し、また、看護師からの意見なども取り入れ、見直しに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個別のチャートに24時間の流れで記録を行っている。申し送りノートを作成し、支援内容を職員で共有している。介護日誌、、ヒヤリハットノート、面会簿を活用している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームおからぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の意向に沿ったかわりが出来る様に、ニーズに応じた支援を行っている。状況をみて外出等を企画している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーや菓子店に買い物に行ったり、散歩に出かけ、地域に馴染めるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前から、主治医との関係を継続し、医療が受けられるように支援している。その都度、状態に応じた内容を報告し、指示をもらい支援を行っている。新しく入居された方は、家族の希望もあり近くの二戸病院に変更している。	二戸病院が近いこともあり、変更した方もいるが、多くの方は入居前のかかりつけ医で受診しており、診療科目によっては二戸病院も利用している。受診は、原則家族が対応しており、その際、日々の記録をメモにしたり、バイタル手帳を渡し状況等を伝えるようにしており、受診結果は、連絡ノートに記録し職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣設の通所介護の看護師に利用者の状態、内服薬、主治医や受診結果を伝え、把握している。急変時には指示を仰ぐ事ができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	県立二戸病院と協力関係にあり、退院時にはカンファレンス等に参加している。入退院時は、共通の連携パスを使用している。近年は入院する方は見られていない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に向けた指針を作成しており、24時間の看護師へのオンコール体制を実施している。重度化に向けた指針の説明は、家族様に説明をしている。	重度化に向けた考え方については、運営規程等の中で、緊急時における対応策として定められており、より具体的な内容については、入居時等に家族に口頭で説明し、事業所としてできることについての理解を得ている。	重度化等の際の対応や看取りのことなど、ホームとして今後も避けて通れない課題と考えられるので、独立した方針の作成や具体的な対応の内容等について、より明確な形での検討を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣設の通所介護の看護師からAEDの講習を受けた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼・夜を想定した避難訓練を行っている。地域との連携協力体制が築けていない状況のなかで、消防署の提案をヒントに夜間避難訓練の方法を変更した。	付近に民家が少ない等の条件の中、隣接のデイサービスセンターと協力して、夜間想定も含めた避難訓練や消火訓練を定期的実施している。近くの同一法人特別養護老人ホームも入れた連絡系統図を作り、災害に備えている。	夜間避難訓練の方法を見直すなど、災害対策に力を入れているが、今後は、避難訓練に近隣を代表する運営推進委員や、近くの特別養護老人ホームの直接参加を検討するなど、災害対策の深化を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報、プライバシー保護の研修を行っている。利用者の尊厳を傷つけないように、注意しケアを行っている。	利用者の人格の尊重という基本的な考え方に基づいたケアを実施している。困難事例の場合は、スタッフで話し合い、本人の意向把握に努め、利用者の立場に立ったサービスの提供に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを達成できるように、ケアを心掛けている。本人の意思を大事にしている。職員は、話し易い環境や雰囲気作りを努め、自己決定ができるよう、選択肢を増やす工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者ががしたいように、寄り添う様に支援を行っている。役割を持っていただき、個々のペースに合わせ対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容室に定期的に来所し散髪をお願いしたり、家族の支援も含め理、美容室に向いたりしている。化粧品や衣類等も一緒に買いに行ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の会話の中で、利用者様の嗜好を把握し、可能な日は、食べたいおかずと一緒に買いに出かけている。調理を行なう事が困難になってきている。主に食器のあと片付けを行っていただいている。	台所にスーパーのチラシを貼り、利用者の望む食品を買って提供したり、個々の好みを把握しメニューに反映させるなど、家庭的な雰囲気の中で食事を楽しむことを支援している。食器の後片付けを手伝う利用者もおり、食事環境が良いことを窺わせる。職員は弁当持参にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取状況を管理しながら、排泄状況、体重管理を行っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームおからぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持のため、食後、声掛けにより、うがい等行なっている。就寝前の口腔ケアを入念に行っている。できない方には介助をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	法人で自立支援介護に取り組んでいるため、基本的に布パンツとパット使用。トイレで排泄する事を意識し、本人の排泄パターンに応じた声掛け、介助を行っている。	法人全体で排泄の自立支援に取り組んでおり、日中は布パンツとパット利用が基本となっている。個々の排泄パターンを把握し、適宜に声掛けや介助を行うほか、軽い運動など、生活リズムの維持にも留意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事摂取量、水分摂取量、活動性を意識した支援を行っている。ヨーグルトや乳製品、又、はちみつや寒天を食べやすいように工夫して提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回、13:30～16:00頃に入浴している。水虫悪化の方には、毎日足浴をする等の対応をしている。一ヶ月に一度は、季節に応じた花等を入れて楽しんでいる。	週二回の入浴を基本としているが、定期的な入浴を強制せず、部分浴を行い、清潔の維持に努めている。毎月「風呂の日」を設けて、季節の花やハーブ、みかんの皮等を浮かべるなど、楽しんでいただけるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムや体調に応じて、居室で休んで頂くようにしている。夜間は、本人の就寝時間に合わせ、エアコンで室内温度を調節し、入眠しやすい環境づくりをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋の管理をしながら、日々の状態観察と支援の注意点に留意しながらケアを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好みややりたい事等を尊重し、物や場の提供を行っている。食事の後かたづけ、洗濯たみ、掃除等を分担したりしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームおからぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候と体調をみながら、1～3日おきに10分～15分位の散歩、外気・日光浴を行っている。月に1～2バスハイクで花見、紅葉、新緑等に出かけている。又、家族帰省時には、墓参りを行っている。	毎日のように散歩や日光浴、買い物等を行ったり、花見、紅葉の時期にはバスでの行楽に出かけるなど、日常的な外出を支援して利用者の心身の健康保持に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる利用者には、お金を渡している。基本的には、事務所で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	十分な広さをとり、ゆったりと過ごせるようにしている。装飾や花等を季節の飾り付けを行い、季節感を演出するようにしている。	廊下や食堂などの共用空間は、天井からの採光を生かし、明るく和やかな雰囲気となっている。ソファの配置方法により、スペースがより広くなりそうにも感じられたが、食堂には、利用者が日課としているスーパーのチラシの貼付けなど、家庭的な雰囲気づくりにも努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファと食堂の椅子と2箇所あり、気の合った利用者が好みの場所で会話を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が自宅で使用していたタンスを持っていただいたり、食器類、写真等を用意していただき、落ち着いた環境になるように支援している。	居室には利用者の使い慣れた筆筒やテレビ等が置かれ、馴染みの写真などが貼られてある。また、空調、温度調整を含め、清潔な環境となっており、居心地の良さを感じさせる。事業所内を地域になぞらえ、居室には「○番地」と表示されるなどの工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは3箇所を設置しており、安心出来る環境である。バリアフリーになっており、移動にも支障がないようにしている。		